相生山緑地オアシスの森くらぶ ニュースレター 32号

2008.3.22 発行

発行／相生山緑地オアシスの森くらぶ編集委員会　　発行人／大館　学　　編集長／近藤　真史

INDEX

【本号掲載分の活動】

10月27日(土)…第9回どんぐり祭り／定例活動
11月17日(土)…巣箱の点検・清掃／特別活動
11月24日(土)…ヤマザクラ周辺の竹林管理／定例活動
12月8日(土)…四日市市「あがたの森づくり」の皆さん来訪
12月22日(土)…門松づくり／定例活動
1月20日(日)…しいたけの菌打ちに挑戦／天白・もりのフォーラム　フィールドサーキット
1月26日(土)…ツツジの園づくり／定例活動
2月23日(土)…アカマツ林整備／定例活動

11月定例活動

ヤマザクラ周辺の竹林管理

11月定例会は竹林管理です。

前日の寒さから一転して暖かな日となり作業には絶好の日和となり、約10人の会員が作業に汗を流しました。

今回は小屋西の竹林の整備を行いました。この場所は私のお気に入りで、大きなヤマザクラがあります。

過去にも数回か整備をした場所で、かつてはテレビ番組「そこ知り板東リサーチ」の取材を受けたこともある場所ですが、時間の経過に伴い竹が繁茂して荒れてきていました。里山保全には終わりがないこととに、あらためて森くらぶの歴史を感じます。

午前中の作業で現場は見違えるように綺麗になりました。

昼休みには、河野さんが育てたサツマイモを焼き芋にして、皆でを輪になって食べました。最近は作業の合間にちょっとした交流があり、これも活動の楽しみになっています。

昼からは切り出した竹を炭にするための材料に整える作業を行いました。各自切り出した竹の整理や材料づくりに汗を流しました。竹を一定の長さに切りそろえ四分割して節を取り除き整えた竹材は、天日干して炭焼きに備えます。

この時期の竹林管理は毎年の定例となっており、何も考えなくても体が動きます。私自身、森の仕事は生活の一部になっていることを改めて感じます。

なお、今回の作業で作る竹炭は、3月の萌木まつりに利用する予定です。炭火で焼いたシイタケ（これも自家製）を肴に、会員の皆さん杯とを交わすことも楽しみなことです。

今後もくらぶ活動に汗を流したいと思っています。　　　　（村田）

12月定例活動

門松づくり

天気予報では正午より雨。空を見ると午前中は何とか持ちそうでした。こんな天候にも関わらず18名が集合。雨の降り出す前にまず山根口の門松を完成させようと全員気合いを入れて取りかかりました。

竹を切る人、土を掘る人、材料を揃える人、…と各自ができることをテキパキとこなして正午前には立派な門松が出来上がりました。芯となる竹の切り口が見事に決まり、周りを囲む松、梅、南天、裏白、葉ボタンのバランスも絶妙で、プロにも劣らぬものとなりました。新年にはくらぶ結成10周年になります。それにふさわしいできになったかなと思います。

余談ながら、竹を切っているとき葉陰にタヌキがひっそりと死んでいました。白骨化していましたが、毛はふさふさとしていました。存在が確認できました。

予報通りに雨がポツポツと降り始めたので小屋のデッキへ移動、小雨のなか残りの材料で各自ミニ門松を作り上げた後、新年の活動での再会を期して解散となりました。　　（伊藤　晶）

このニュースレターは（財）ニッセイ緑の財団「雑木林の保全・再生」活動研究協力金により作成しています。

1月定例活動

ツツジの園づくり

前日は寒い日で、当日の予報も寒くなるとのこと。参加者が低調になることをおそれていたのですが、見学希望者を含め17名の盛況となりました。梅林を通ってツツジの小径へ向かうと、一部の梅がほころび始めていて近づく春に心が軽くなりました。

小径の周辺はここ数年の手入れでずいぶん元気になっていたので、今回は奥まったところにも手を入れることにしました。光不足で立ち枯れになっている木々を取り除き、奔放に伸びたヒサカキを伐採して、水止め兼いのちの谷へのバリアとして斜面の中腹に横に長く積み重ねました。

人手が多いというのはすごいことで、午前中の作業で森はすっかり明るくなり、思った以上に多くのツツジが姿を見せました。少し大げさに言うと、今年はこの辺り全体がツツジの花で紅く染まることでしょう。

▲ヒサカキや立ち枯れの木々を取り除き明るさを取り戻した

午後は、シイタケ駒菌打ちをデッキでしました。コナラのホダ木20本に菌を打ち付けて炭焼き釜の後ろに仮伏せしました。２年後の秋頃から収穫できるでしょう。

▲午後に行ったシイタケの駒菌打ちのようす

余談ながら、メンバーの一人が手作りの野沢菜おやきを、他の方が友人の猟師から頂いたという鹿肉を差し入れて下さり、珍味に舌鼓を打ちました。“食を共有することは心をつなげるものである”などと森の哲学者気取りになった一日でした。　　　（伊藤　晶）

シリーズ『森の住人たち』⑲

～アサギマダラ～　その３
ナゴヤから1800kmの旅
－沖縄県八重山諸島の小浜島－

タテハチョウ科マダラチョウ亜科　　開長　10cm
分布　日本全土　　食草　キジョラン、カモメヅル、イケマなど

1800kmを旅したKOK2のアサギマダラ

11月13日の夜、パソコンを開くと、メーリングリストの件名に「再捕獲情報：沖縄県小浜島　KOK 2　ナゴヤ　10/11」とあるのを見つけた。急いでメールを開く。

本文には、11月13日、沖縄県八重山郡竹富町小浜島大岳で、KOK2とマークされたチョウを再捕獲したとの報告だった。10月11日のマーキング記録を探す。この日は快晴、相生山緑地のいつものマーキング場所に到着すると、すでにアサギマダラが花に訪れていてすぐさま捕獲したことを思い出す。アサギマダラの左後翅に小さな欠損があったというメモがある。その翅で1800kmを旅したのだと思うと、一層いとおしく、胸が熱くなる。

小浜島といえば、何年か前にＮＨＫドラマ「ちゅらさん」の舞台となった島である。33日間の旅のその距離は約1800km。さまざまな花の蜜をエネルギーに、丘を越え、海を越え南下したのだろう。この記録は、ナゴヤからの飛距離としては過去最長となった。（その約10日後、さらに数km先に飛翔したアサギマダラが確認される）

メールに感謝の言葉を添え、ナゴヤでマークした時の状況を連絡した。平成19年、その年に私がマークしたチョウは24頭。アサギマダラの季節に頻繁に捕獲に出かけてもこの頭数である。理由は簡単かつ明瞭。観察会ではもちろん参加者が主役、たとえ私が捕獲したチョウであっても参加者にマークをしてもらう。またフィールドで出会った人で、アサギマダラやマーキング調査に関心を寄せた人にも、積極的にマーキング体験を勧める。というわけで、自身のマークは必然的に少なくなる。

マークしたチョウが、1800kmを旅したことをひとしきり喜んだあと、私がふっと思ったことは、「沖縄まで飛んだチョウが、参加者のマークしたものだったらなぁ～」ということである。どうやら私は、企画者向きの性格らしい。

（文責　　自然案内人　近藤　記巳子）

２月定例活動

アカマツ林再生プロジェクト

名古屋で最大瞬間風速22ｍの春一番が吹き荒れる中、２月23日（土）“アカマツ林再生プロジェクト”を行いました。当プロジェクトは2000年頃から始まり、毎年恒例となって現在も続いています。

もともと尾根筋にあったアカマツ林が、マツクイムシなどの影響で松枯れが進行していく中、なんとか尾根筋のアカマツ林を再生しようと試みてきたものです。

枯れていない母樹の樹高を半径として、その２～３倍の区域を更新範囲に定め、その中の灌木類の伐採を行うとともに熊手などを使って地表のかき起こし“ごうかき”を行います。

当日は、14名の参加の下、ヒサカキなどの刈り払いや林床の整理などを行いました。そうした効果もあって、すっかり明るくなった施工済みの区域では、現在、松の稚樹から３～４年のものまで林床にいっぱい生えています。今後も生長をしっかりと見守りたいものです。（小池）

←作業前

↓作業後

巣箱の点検・清掃

11月17日（土）、急に冷え込み寒い朝となったが天気は快晴。ヤマハゼが紅葉し、アオハダも黄葉し始め森は冬支度を始めていた。メンバー10名が集まったところへ「上空にオオタカとハイタカが舞っていたよ！」と古澤講師が声を弾ませてこられた。

カメラの画面と図鑑でハイタカとオオタカの違いを教えて頂く。よく似ているがハイタカの尾はまっすぐ横に水平に切れており、オオタカは山形になっているとのこと。再度見られることを願いつつ巣箱の点検に出発。

最初の巣箱は空っぽ。２つめは見事にスズメバチの巣が一杯に広がっていた。その後は土バチ、ゴキブリ、スズメバチ…と続く。

散策エリア上空でハイタカがかなり低くまで降りてきて全員がエキサイト。途中メジロとシジュウカラの大群にも出会った。しかし、訪れたどの巣箱も１つを除いて使用された形跡は無く、古澤講師も当惑気味。来年に期待して設置場所を変えたり、巣箱の入り口の向きを微調整したりして点検・清掃作業を終えた。

古くなったり、壊れたり、紛失している巣箱も多く、新しい巣箱の製作を考える時期かも。（伊藤　晶）

四日市市「あがたの森づくり」の皆さんが視察にみえました

12月８日（土）の午前、三重県四日市市から「あがたの森づくり」の皆さんがオアシスの森を視察にみえました。穏やかな小春日和の中、総勢30名で約１時間、駆け足でオアシスの森を見てもらいました。大都会の中にこのような森があることに大変感動されていました。

森くらぶからは伊藤晶子さん、森さん、真弓がご案内をしました。（真弓）

10月定例活動

第９回どんぐり祭り

～雨天中止となりました～

10月27日（土）朝から雨。９時頃からメンバーや天白土木事務所の方々が準備に集まりましたが、雨足は強まるばかり。11時頃まで粘ってみるも、やむなく中止が決定しました。

集まったメンバー等は、豚汁の具として用意された細切れの野菜を分け与えられ、渋々帰路に着いたのでした…。

次回は記念すべき10回目！２回分まとめて、これまで以上の盛況な祭りにするぞ～!!!（編）

天白・もりのフォーラム　フィールドサーキット

しいたけの菌打ちに挑戦

「天白・もりのフォーラム」は天白区内の自然をフィールドとして活動している市民グループ10団体と行政機関が連携した組織です。

今年ももりのフォーラム参加団体のフィールドで自然に親しんでもらおうと企画がされ、第６回、１月20日(日)が森くらぶの担当となりました。当日は区役所が募集した親子づれを中心に38名の参加者を集め、しいたけの菌打ち作業を楽しみました。

最初に集いの広場で、きのこについての説明を行いました。いつもなら森の分解者としてのきのこの意義を解説するところ、主婦層の興味が高い原木きのこと菌床きのこの違いとか、毒きのこの話をし、次にきのこの菌打ちについての説明を行いました。

それから秋に除伐しておいた相生山のコナラのほだ木を各自持って、小屋の横のデッキに集まり、ドリルで穴を開け、しいたけの駒菌打ちを楽しみました。ドリル作業は大人、駒菌打ちは子どもが行ううこととし、２台のドリルがフル稼働。瞬く間に作業が完了し、開いた時間で竹炭焼きの解説を村田さんにしてもらいました。

各家族には自分で打ったしいたけのほだ木がお土産に配られました。当日は区役所のまちづくり推進室の天野さん、原さんも応援に駆けつけ、くらぶの会員とともに参加者の相手をつとめてくださいました。

また、中日新聞やケーブルテレビの取材も入り賑やかなイベントとなりました。　（大舘）

Schedule

【定例活動予定】

集いの広場　10:00集合

4月26日(土)　竹林整備　**午後３時から総会**
5月24日(土)　小屋周辺整備
6月28日(土)　トンボ池周辺整備、梅の実狩り
7月26日(土)　講座「森の調査」
8月23日(土)　クラフト
9月27日(土)　柴刈り大会・いのちの谷整備
10月25日(土)　第10回どんぐり祭り

※５月以降の予定は(案)です。総会で正式に決定します。

●●●●●●　会員募集中！　●●●●●●

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。

具体的な活動内容は

◆オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。
◆公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。
◆植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。
◆柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。
◆その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

○会費は年間1,500円（保険料含む）です。主に連絡、郵送費です。
○振り込み先（郵便局）　オアシスの森くらぶ 00860-7-33725

Information

【参加申込み・お問合せなど】

事務局
伊藤百寿人 052-895-8523
中島己治男 052-803-9534

【Eメール】

Mail address：
aioiyama-moriclub@mail.goo.ne.jp
★参加申し込み・お問い合わせなどをメールでも受け付けています。
★会員の皆さんへ・・・活動に関する各種の情報を提供するため、メールアドレスをお持ちの方はお知らせ下さい。

【ホームページ】

URL address：
http://f44.aaa.livedoor.jp
/~oasis/index.html
★ニュースレターのカラー版（PDFファイル）がダウンロードできます。
★定例活動・特別活動の報告や予告などを随時更新しています。

ホームページ管理・作成スタッフを募集しています！
お手伝いいただける方、興味のある方、是非ご一報を!!